

管内関係機関 担当者 様

感染症発生動向について

このことについて令和7年第38週(9月15日～9月21日)の動向をお知らせします。

定点あたり患者数(1医療機関当たりの平均報告数)

感染症の種類	県北保健所管内 (平戸市、松浦市、佐々町)			長崎県	全国
	36週	37週	38週	38週	38週
インフルエンザ	0.33	0.33	0.33	1.06	0.80
新型コロナウイルス感染症	27.33	25.67	17.67	10.51	6.93
RSウイルス感染症	12.00	5.00	4.50	3.42	1.64
咽頭結膜熱	●4.50	●1.50	0.50	0.32	0.28
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2.00	0	1.50	1.26	1.45
感染性胃腸炎	5.50	5.00	3.50	2.45	3.90
水痘	0.50	0.50	●3.00	0.77	0.20
手足口病	1.00	1.00	1.00	0.13	0.46
伝染性紅斑	●3.50	●3.00	●3.00	●2.52	1.23
突発性発疹	0	0	1.00	0.45	0.29
ヘルパンギーナ	0	0	0	0.13	0.70
流行性耳下腺炎	0	0	0	0.03	0.04
急性出血性結膜炎				0	0.01
流行性角結膜炎				3.00	1.08
細菌性髄膜炎	0	0	0	0.08	0.01
無菌性髄膜炎	0	0	0	0	0.05
マイコプラズマ肺炎	1.00	0	0	0.58	1.11
クラミジア肺炎	0	0	0	0	0.01
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	0	0	0	0	0.01

急性呼吸器感染症 (ARI)	65.00	64.33	48.67	61.20	53.05
----------------	-------	-------	-------	-------	-------

●:警報レベル ▲:注意報レベル

【トピックス】 新型コロナウイルス感染症に注意しましょう。

長崎県の第38週の報告数は536人で、定点当たり報告数は10.51でした。地区別にみると、対馬地区(19.67)、県北地区(17.67)、県南地区(14.60)は他の地区より多くなっています。ほとんどの地区で前週より減少していますが、今後も動向に注意しましょう。

本疾患の主な症状は、発熱、咳、全身倦怠感等の感冒様症状で、主に飛沫感染や接触感染により感染します。場面に応じたマスクの着用や手洗い、換気、三密の回避などの基本的な感染対策に努めましょう。

【トピックス】 伝染性紅斑が流行しています。

長崎県の第38週の報告数は78人で定点当たり報告数は2.52人となり、7週続けて警報レベルの報告数となりました。地区別では、10保健所中7保健所で警報レベルの報告数となっています。

本疾患は、ヒトパルボウイルスB19による感染症で、小児を中心にみられる流行性の発しん性の病気です。約10～20日の潜伏期間の後、微熱やかぜの症状などがみられ、その後、両頬に蝶の羽のような境界鮮明な赤い発しん(紅斑)、体や手足に網目状やレース状の発しんが広がりますが、ほとんどは合併症を起こすことなく自然に回復します。一方で、これまで感染したことのない女性が妊娠中に感染した場合、胎児にも感染し、胎児の異常や流産のリスクとなる可能性がありますので、注意が必要です。感染経路は、飛沫感染や接触感染ですので、手洗いやマスクの適切な着用など感染予防に努めましょう。

【トピックス】 マダニやツツガムシが媒介する感染症に注意しましょう。

マダニ類やツツガムシ類は、野外の藪や草むらに生息しているダニで、野生動物が出没する環境に多く生息しているほか、民家の裏山、裏庭、畑やあぜ道などにも生息しています。マダニ類は「日本紅斑熱」や「重症熱性血小板減少症候群(SFTS)」を媒介し、ツツガムシ類は「つつが虫病」を媒介します。

長崎県では、2025年第38週にSFTSおよび日本紅斑熱の報告が1件ずつありました。
過去5年の県内の発生状況を見ると、10月に日本紅斑熱、11月につつが虫の報告が最も多くなっています。ダニ等が媒介する感染症の予防には、ダニに咬まれないことが重要です。野外で活動する際は、長袖、長ズボン、長靴を着用するなどして肌の露出を極力避け、マダニに有効な虫よけ剤を使用して感染防止に心がけましょう。もし、マダニ等に咬まれていたことに気づいた場合、無理に取り除こうとせず、皮膚科等の医療機関で適切に処置してもらいましょう。また、咬まれた後に発熱等の症状があった場合は、速やかに医療機関を受診しましょう。受診した医療機関では、咬まれた状況などをできるだけ詳細に説明しましょう。